

エドアルド・キョソーネに就て (二)

隈 元 謙 次 郎

六

明治二十四年七月公職を退いたキョソーネは、爾後専ら愛好する日本美術の蒐集に努めたが、猶 明治天皇御軍服御尊影の鋼版謹製のために印刷局に通勤し、精勵雕版に努め、印刷を指揮し、遂に明治二十六年十二月二十五日に至つて其の印刷に成功した。

超えて明治二十八年日清戦役に大捷を得、諸將凱旋するや、第二軍司令官陸軍大將大山巖をはじめ、大本營陸軍參謀陸軍中將川上操六等の肖像を描いた。又此の年大山巖夫人の肖像をも描いた。

又明治二十九年嚮に薨去遊ばされたる有栖川宮熾仁親王殿下並びに北白川宮能久親王殿下の御肖像を拜寫し奉つた。

而して、明治三十年正月、偶々病を得たるキョソーネは、一年有餘を静養に過し、一度快癒したが、翌三十一年四月十一日東京市麴町區平河町の自邸に於て卒然として永眠した (註一)。享年六十六歳。吾が國來朝以來二十三年餘である。而して畏くも宮中に於かせられては、

エドアルド・キョソーネに就て

生前の功を賞し其の死を憐み給ひ、特に祭祀料として金五百圓を賜ふた。同月十四日午前九時より築地天主教會堂に於て葬儀を舉行した。彼の死を悼み會する者田中宮内大臣、大山大將、伊藤總理大臣代理、井上大藏大臣代理、三宅式部長、齋藤有栖川宮別當等の顯官をはじめ二百餘名に上つた。伊太利亞全權公使オルマニー伯爵は立つて次の如き弔辭を述べた。即ち

伊國大美術家キョソーネ氏逝く。氏は本國ゼノアに生れ、少時同市の美術學校を卒業し夙に其名を歐洲に知らる。後日本政府の聘に應じて遠く東海の波濤を越え、留ること二十八年、その天稟の妙技は現今の世界に於て氏の右に出る者蓋し少なし。氏や歐洲の美術國に生れ、其の生涯の重なる部分を東洋美術國に消費したるは氏の最も幸福として天に感謝する處なるべし。而して今や既に永眠す。吾人は實に哀悼の情に堪へざるなり、噫 (註二)。

式を終つて遺骸は遺友及び勳三等に對する儀仗兵に護られ、青山の瑩域に至り、此處に永遠に眠つた。其の墓誌銘の表には伊太利亞文を以

て

ALLA SACRA MEMORIA

DEL

PROFESSORE EDOARDO CHIOSSONE

第一圖 東京青山墓地在キヨソーネ墓碑

NATO IN ARENZANO(ITALIA) NEL 1833
MORTO IN TOKIO L'11 APRILE 1898

と記され、其の裏面に隸書を以て

江裕安留裕喜與曾禰先生墓

西曆千八百三十三年生於伊太利亞國安禮牟坐乃千八百九十八

年四月十一日歿於日本國東京

と記されてゐる(註三)。

斯くて、彼は其の半生涯を日本に於て送り、遂に愛好せる日本の土

と化したが、其の

死に臨み遺言狀を

以て永年の住居地

たる麴町區の爲に

金三千圓を同區貧

民救助費として寄

贈せる外友人、侍

僕に對しても夫々

遺産の一部を與へ

た(註四)。就中、

彼が多年に亙つて

蒐集せる日本美術

及び工藝品の大蒐

集は、擧げて是を

彼の母校たる伊太

利亞デエノヴァ市

のアツカデミア・リグステイカ・デイ・ベルレ・アルタイに寄贈した。こ

れを記念して一九〇五年(明治三十八年)同校内にキヨソーネ博物館が

開設され、彼の蒐集は歐洲に於ける日本美術研究の一大資料となると

第二圖 東京青山墓地在キヨソーネ墓碑誌銘

共に、永遠に彼の功績を讃ふることとなつた。此の事實に就てはなほ章を改めて説くこととする。

(註一) U. Thieme u. F. Becker: Allgemeines Lexikon der Bildenden Künstler
に横濱に歿すとあれども誤なり。

(註二) 東京日々新聞明治三十一年四月十五日號。

(註三) 誕生の年月日に就きては第一章(註一)參照。

(註四) 彼は極めて慈善心に富み、明治九年東京入舟附近の大火、其の後の神田の大火等に際し、その都度救恤金を贈つた。

七

キヨソーネは、其の生涯の後半を日本に送り、吾が國に於ける業績顯著なりしことは上來述べ來つたところである。而して、そのうち彼が公務或は其の餘暇を以て、肖像畫をはじめ紙幣其の他多くの印刷作品を製作した事實も既に次を逐うて説き來つたが、以下にそれ等の作品を實際について顧みて行くこととする。

其の第一に擧ぐべきは 明治天皇及び 大正天皇の御尊影並びに有栖川宮熾仁親王、有栖川宮熾仁親王、北白川能久親王三殿下の御肖像であり、其の第二は明治諸功臣の肉筆肖像畫であり、其の第三は是等諸功臣の銅、銅版畫及び國立銀行及び政府紙幣或は日本銀行兌換銀券等の印刷作品である。

畏くも 明治天皇御尊影に就きては、印刷局沿革録明治二十一年一月の項に

天皇陛下御正服並ニ御軍服ノ御尊影ヲ敬寫スベキ旨ニ依リ彫刻師キヨソーネ主トシテ執筆ヲ擔當ス次テ御軍服御影を銅版ニ彫刻スヘキノ命アリ又キヨソーネ鐫刀ヲ擔當セリ

と記載されてゐる。即ち、キヨソーネは畏くも 明治天皇御尊影謹寫の命を受け、一月十四日芝公園彌生社に行幸の砌り蔭ながら玉顔を拜して寫しまゐらせ(註一)、遂に明治聖代の大君に御相應しき尊嚴と御威容に輝く大帝御正裝の玉姿を完成し奉つた。又前記印刷局沿革録に記す如く、御軍服御尊影は更に銅版に鐫刻すべき御下命あり、キヨソーネ此の稀有の大凹銅版による御尊影の雕鐫に腐心し、印刷局退職後も銳意これにあたり、其の印刷に際しては、印刷局の邦人技術家を指導して、遂に明治二十六年十二月二十五日其の印刷を完成し奉つた。

又二十一年九月五日御下命に依り東宮時代の 大正天皇の御尊影を謹寫し奉つたことは曩に記載したところである。

次に有栖川宮熾仁親王の御肖像(高松宮家御藏)は高さ五五・五厘幅員四三厘の楕圓形の畫面にコンテを以て描き奉つた御像である。神道教導職總裁或は御親祭御用掛として神祇の事に御盡瘁ありし熾仁親王には明治十九年一月薨去し給ひ、間もなくキヨソーネは親王の御肖像を描き奉るべき命を拜した。キヨソーネは親王御晩年の衣冠束帶の御寫眞に據つて半身像として描き、御衣紋の細部は御遺品に依て精寫し奉つた。畫面の右下に E. Chiosone と記されてゐる。

有栖川宮熾仁親王の御肖像(高松宮家御藏)は熾仁親王の御長子にして陸軍大將に任じ給へる熾仁親王の御肖像であり、熾仁親王御像と

同形の畫面にコンテを以て描かれてゐる。親王は日清戰役に際し參謀總長の要職に在らせられ、大纛を廣島に進めらるるや、扈從して帷帳に參畫し給うた。畏くも廣島に於て疾を得給ひ、明治二十八年一月東京に薨せられた。生前の御勳功に依つて大勳位菊花頸飾章を授けられ、功二級に昇叙せられ給うたが、越へて二十九年キヨソーネは親王の御肖像拜寫の命を拜し、陸軍大將の御正裝を召されたる親王の正面を向かせ給へる御影を半身像として描き奉つた。額裝の飾紙に Edoardo Chiossone の署名があり、更に畫面外(飾紙)に Edoardo Chiossone, Disegno Tokio 1896 と署名及び年記がある。

北白川能久親王の御肖像(北白川宮家御藏)は有栖川宮兩殿下の御像と同型の畫面に畫き奉つたコンテ畫である。親王は明治二十八年四月近衛師團長として將兵を率いて初め滿洲に渡らせ給ひ、次で新しく吾が領土となりし臺灣の匡族を討つてこれを平定し給ひ、赫々たる武功を立てさせ給ふたが、畏くも此の年十月臺南に薨じ給ふた。十一月勳功により菊花頸飾章並びに功三級金鷄勳章を賜ひ、陸軍大將に陞らせ給ふた。此の御像は恐らく親王薨去の翌明治二十九年御下命に依り謹寫したものであらう。キヨソーネの署名がある(註二)。

而して、以上 明治天皇及び 大正天皇の御尊影並びに有栖川宮幟仁、熾仁兩親王、北白川宮能久親王の御像の製作こそは、キヨソーネ生涯の最高の榮譽であつたが、彼の製作の第二群に屬する明治諸功臣の肖像畫には、三條實美像、西郷隆盛像、大久保利通像、西郷從道像、大山巖像、川上操六像、得能良介像及び大山夫人像等のコンテ畫がある。

「大久保利通像」(侯爵大久保利武氏藏 畫面高五〇・五厘 同幅員三八・八厘)は次に舉ぐる西郷從道像と共に、キヨソーネの吾が國に於ける最も夙き肉筆肖像畫であり、又幾つかの大久保利通像としても最初の、而も、最も優れた作品である(註三)。即ち、畫面左下隅に E. Chiossone Tokio 1876 とあり、彼が來朝の翌年明治九年の製作なるを知る。而して、楕圓形の畫面にコンテを以て描いてゐることは以下舉ぐる作品と形式を等しくしてゐる。大禮服を纏ひ、右手を机上に置いて立てる大久保卿の悠揚迫らざる姿態と、透徹せる眼と特徴ある頭髮、髯の細緻なる描寫に其の非凡なる人格を表してゐる。此の像の姿態の據つて來るところは、卿が特命全權大使岩倉具視に副使として隨行し、歐米巡視中巴里に於て撮影したる寫眞であるが、卿猶在世中なれば、其の面貌及び姿態の細部は寫生に依りしものと推せらる。而して、キヨソーネの肖像畫の全般を通じての特色は、其の細緻なるコンテの使用即ち擦筆を濫用せずしてコンテの描線を生かし、顔面、衣服の陰影に於ける適度の強調によつて寫眞的相似の卑俗さを破つてゐることである。是は彼の銅版畫家としての素養の然らしむるところである。猶此の像成つて後、明治十年十一月大久保卿は功に依て勳一等旭日大綬章を授けられた。依つて特に胸間の綬及び勳章は後より加筆された。

「西郷從道像」(侯爵西郷從德氏藏 畫面高五六厘 同幅員四三厘)も明治九年に成りし作品であり、畫面右下隅に Ed. Chiossone Tokio, 1876, と記されてゐる。明治七年臺灣蕃地事務都督として皇軍を率ゐて臺灣に遠征せる當時の記念として描かれたものなるべく、當時の陸軍中將の正裝を着け

臺灣の地圖を握れる右手を砲身にもたせて立つてゐる。而して、背景に海を描き、點景として帆船型の軍艦高砂號を描いてゐる。

「西郷隆盛像」(侯爵西郷從德氏藏 畫面高五二・五釐 同幅員四〇・二釐) は、明治十六年の製作であり、畫面中央下に E. Chiossone, Tokio 1883 と記されてゐる。

由來南洲翁の寫眞は絶無とされ、後年數多の南洲翁像が作られたが、何れも據るところは此のキヨソ

第三圖 キヨソーネ筆 ラルストン像(石版畫)

ーネの作品である。輝ける大きな眼、濃厚なる眉、豊かなる頬、堅く引きしまれる口、盛り上れる堂々たる雙肩等南洲翁の特質を表してゐる。キヨソーネは、此の大英傑の表現に近親者にはかりつつ製作したことは論を俟たないが、其の形似に於て、南洲翁の親近者に就いて是を求めた。即ち顔面の上部は其の令弟たる從道侯を、下部は從

弟たる大山巖元帥の顔を採用したと傳へられる(註四)。

「得能良介像」(得能良介氏藏 畫面高四〇・一釐 同幅員三〇・一釐) も明治十六年の作品である。畫面下部に 27 Xbre 1883 と年記がある。キヨソーネの招聘に盡力し、來朝以後最も懇切に指導したのは、此の初代印刷局長得能良介であつた。彼は紙幣頭に擧げらるるや、銳意是が刷新を企て、キヨソ

エドアルド・キヨソーネに就て

ーネを始め外國技術家を聘し、機械を輸入し、吾が紙幣の海外委囑を廢して國家百千年の大計を確立した。されば、キヨソーネも亦慈父の如く是を慕うたことは既に述べた。彼は明治十六年十二月印刷局長として、在職中途に病に殞れたが、キヨソーネは恰も其の逝去の日より二箇月前に其の肖像を完成した。病篤かりし彼は既に其の顔に焦悴を示してゐるが、其の溫容は傳へられてゐる。而して、得能良介は明治三年南洲翁の所望に依つて其の長女を西郷從道に配し、西郷家とは姻戚關係に在り、従つてキヨソーネが西郷隆盛像をはじめ、從道像、大山巖像等を製作せる機縁も茲に在つたと信ぜられる。

石井柏亭氏藏

「大山巖像」(公爵大山柏氏藏 畫面高五七・五釐 同幅員三九・〇釐) は明治二十一年の製作であり、畫面左下隅に E. Chiossone の署名があり、更に裏面に S. E. il Conte Olama ministro della Guerra Edoardo Chiossone

Disegno Tokio L, 18 Novembre 1888 と記載されてゐる。即ち陸軍

大臣伯爵としての肖像であつて、陸軍中將の正装に身を固めたる大山公は、右手を机上の地圖の上に置き、直立して正面を凝視してゐる。

「三條實美像」(公爵三條公輝氏藏 畫面高六〇釐 同幅員四九釐) は、明治二十二年六月の製作であり、畫面左下隅に E. Chiossone の署名があり、更に畫面

外の右下隅に E. Chiossone 'Tokio Giugno 1889' と記されてゐる。後來舉ぐるところの銅版畫三條公像の立像にして斜左向なるに比し、此の像は斜右向半身像である。而して、此の像に於てキヨソーネの技巧も極めて圓熟し、氣品高き風采を寫し得て餘りあるものがある。公は明治十八年太政大臣を辭し、次で内大臣に擧げられたが、此の像成りし明治二十二年には年齒五十三歳である。

第四圖 キヨソーネ作 シーボルト像(石版畫)

石井柏亭氏藏

下隅に E. Chiossone の署名があり、同じく明治二十八年頃の作品と推せられる。夫人凡そ四十四・五歳の肖像である。

「川上操六像」(西村新一郎氏藏 畫面高五一・四〇 同幅員三九・五〇) は陸軍中將の正装を纏へる川上將軍の半身像であり、前記大山大將像と同じく、明治二十七八年戰役に、大本營陸軍參謀として帷幄に參畫せる將軍が、戰勝

「大山大將像」(公爵大山大山柏氏藏 畫面高五四・五〇 同幅員四二・五〇) は陸軍大將の正装を纏へる半身像である。畫面外右下隅に Ed. Chiossone の署名がある。公は明治二十七八年戰役に際し、第二軍司令官として將卒を統べ、戰功あり、凱旋後功二級金鷄勳章並に旭日桐花大綬章を賜はり侯爵に列せられた。此の作品は日清戰役凱旋祝勝會を記念し、キヨソーネをして描かしめたものと傳ふ。前述の明治二十一年陸軍大臣時代の肖像に比し、彼の筆技老練を加へ、明治の偉大なる武將の風采を極めて巧に表現してゐる。

「大山大夫人像」(公爵大山大山柏氏藏 畫面高五四・〇〇 同幅員四二・五〇) は大山大山公夫人の肖像である。右に擧げたる大山大將像と其の形式を等しくし、畫面外右

記念の爲にキヨソーネに委嘱した作品と傳へられる。右肩を僅かに前にし、正面を凝視する將軍は傲岸なる風貌の中に或る諧謔を湛へてゐる。此の寧ろ謹嚴なる顔の複雑なる表情は將軍の特徴であつたと傳ふ。而して、此の作品には畫面に署名なく、額装の飾紙に Ed. Chiossone の署名がある。

次に彼の製作の第三群に屬するものに次の各種の版畫がある。

「大久保利通像」(畫面高五一・五〇 同幅員三九・五〇) は前述のコンテ畫大久保卿像を銅版に雕刻せる

ものである。その手法については嚮にも一言したが、なほ印刷局沿革録明治十二年三月十五日の項に

彫刻師キヨソーネ贈右大臣大久保利通公ノ肖像ヲ銅版ニ鐫刻ス此ヲ本邦ニ於ケル「メソチンタ」式一名マニエール・ノワール式彫刻版ノ嚆矢トス

とあり、又十二年二月の項に

贈右大臣大久保利通公ノ肖像ヲ印刷ス 始メテ凹版印刷法ニ依リ大形ニシテ緻密ナルモノヲ印刷スルコトヲ得タリ

と記せる如く、此の像は初めて吾が國にメソチンタ式を紹介した記念すべき作品である。而して、版面左下隅に E. Chiossone Tokio 1878 とあり、明治十一年原型の刻成りしことを知るが、その完成は十二年三月であつた。

「三條實美像」(畫面高五四・五釐 同幅員四〇・五釐)は大久保卿像に次で、印刷局に於て版に附したる肖像畫であり、E. Chiossone Tokio 1880 と年記及び署名がある。即ち其の原版は、明治十三年に成つた。而して、翌十四年四月に至つて其の印刷を完成した。實美公凡そ四十三・四歳の肖像である。而して、キヨソーネは此の像以後の原版に、特に銅版に代へて銅版を用ひた。

「木戸孝允像」(畫面高五一・五釐 同幅員三九・五釐)も前二者と同様の橢圓形の畫面に描かれた七分身立像であるが、次に擧ぐる岩倉公像と等しく、向つて斜右向の姿態をとつてゐる。畫面に E. C. 1886 と記入され、明治十九年に原版成り、次で翌二十年八月に至つて印刷完成した。木戸公は明治十年四十五歳にして薨去したが、此の像は恐らく、特命全權副使として歐米巡視中明治五年七月英京倫敦に於て撮影せる寫眞に據つたものと思はれる。

「岩倉具視像」(畫面高五四・八釐 同幅員四〇・八釐)は、以上擧げ來つたキヨソーネの印刷局に於ける明治元勳の四連作中最後に成つた作品である。右大臣として廟堂に重きをなした岩倉公は、明治十六年病を以て薨じたが、此の

像は其の歿後即ち明治二十二年十二月に完成したものである。此の像は前述の如く、木戸公像と等しく、向つて右向の七分身立像であり、又今日宮内省に藏せらるる高橋由一筆油繪全身立像の同公像と極めて類似せる姿態をなし、殊に顔面に於ては、其の據るところ同一なるを思はせる。

而して、以上の銅版或は銅版畫の外に、二つの石版肖像畫がある。即ち「シーボルト像」と「ラルストン像」である。

「シーボルト像」(畫面高二六・三釐 同幅員二一・五釐)は文政以來長く吾が國に在留し、吾が國文化に貢獻するところ多かつた獨逸の醫學者シーボルトの肖像である。畫面に Ph. F. von Siebold E. Chiossone Tokio Giappone 1875 と記されてゐる。即ちキヨソーネ來朝當初の作品であり、時の伊太利亞全權公使の紙幣寮への依頼に依つて、此の原畫を製作し、其の印刷はチャールス・ポラールドの手に成つた。その據るところは慶應二年シーボルト最晩年の寫眞に基く。

「ラルストン像」(畫面高三六・八釐 同幅員三〇・八釐)はカリフォルニア・バンク頭取ラルストン Wm. C. Ralston の像である。同じく紙幣寮に於て製作されたものであるが、肖像畫面外に E. Chiossone 1876 と記入され、明治九年の製作なるを知る。

以上の外、彼が印刷局に於ける銀行紙幣、兌換券等多くの作品に就ては、其の業績を述べるに際し、説いたところであつて、茲に重ねて解説を要しない。只其の主なるものを重ねて列記すれば、國立銀行紙幣、政府紙幣、日本銀行兌換銀券、改造日本銀行兌換銀券、金祿公債

第五圖 キヨソーネ作 苦惱の慰安者聖母マリア圖（銅版畫）

二二

證書、金札引換無記銘公債證書、中仙道鐵道公債證書、授爵用紙、勳章年金證、印刷局符標、地券狀、郵便切手、同葉書、煙草鑑札、同帶印紙、同角印紙、大藏省證券、爲替手形、約束手形、起業公債證書等枚舉に違がない。而して、是等の意匠、圖案中の人物、風景、花鳥等は個々にコンテを以て描き、原版の製作に當つて四分の一に縮刻したものである。印刷局に藏せられた是等の原畫及び原版が、大正十二年の大震災火災に依つて焼失したことは遺憾である。

彼の遺作中に最後に附記したいのは、彼の在伊中の作品にして、吾が國に遺存する次の數點の銅版畫である。蓋し、是等は彼が來朝の際多くの版畫と共に、參考品として將來したものである。

「苦惱の慰安者聖母マリア」Madonna Consolatrix Afflictorum（山崎善三郎氏藏 畫面高四〇・八糎 同幅員二五・二糎）はニコロ・バラビーノ（註五）の原畫に據る銅版畫であつて、老幼男女の數人の惱める家族が聖母子の膝下に跪座して慰めらるる圖である。此の作品は是等の遺品中最も精緻を極め、彼の青年時代の伎倆を窺ひ得るものであつて、以下に擧ぐる作品と共に、今日羅馬國民美術館にも收藏されてゐる。

「麯包と涙」Pane e Lacrime（内閣印刷局藏 畫面高三一・一糎 同幅員二五・四糎）は病床に在る貧しき母と少女を描き、ドメニコ・インヅノ（註六）の原畫に成り、キヨソーネの師グラナラの工房に於て製作せる作品である。

「デオットとチマブーエ」Giotto e Cimabue（利光永松氏藏 畫面高二五・七糎 同幅員二）は、デユセツペ・イソラ（註七）の原畫に據つて雕鐫せるものであり、デオルドオ・ヴァザリーが、デオットがチマブーエの門弟とな

第六圖 キヨソーネ作 麯包と涙圖（銅版畫）

山崎善三郎氏藏

内閣印刷局藏

つた機縁を叙せる場面を描いたものである。前者と同様にグラナラの工房に於て製作された。

以上の外「アレツサンドロ・デ・メデイチの最後」La fine di Alessandro de Medici なる作品があるが、吾が國に於て未だ發見し得ざることを附記して置く。

以上吾が國に於けるキョソーネの各種の遺作品に就て述べた。而して其のコンテに依る肖像畫の比類なきは論を俟たないが、彼が銅版畫或は銅版畫に示した各種の技法は、いづれも從來の稚拙なる吾が銅版畫法に飛躍的な進歩を與へた。即ち其の一つはメソチンタ式の紹介であつて、版面に柔潤なる諧調を與へる此の手法によつて精緻なる銅版肖像畫の製作可能なるを教へ、又其の腐蝕法に於ては、亞歐堂田善以來丹礬の煮込みを使用する等の和蘭法を墨守し來つた銅版畫界に、鹽酸に加里を混じて用ふる現今の正式なる腐蝕銅版の手法を傳へたのであつた。

(註一) 長崎省吾氏謹話——武田勝藏氏談。

(註二) 武田勝藏氏談。

(註三) 大久保利通像として知らるるものには他に高橋由一筆の油繪(帝室博物館藏)、ラグーザ作浮彫彫刻像及び小林清親作木版畫等がある。

(註四) 安藤照氏、大西郷と銅像(改造昭和十二年九月號)

(註五) Nicolo Barabino 著名なる歴史畫家。一八三二年デエノヴァ近郊に生れ、一八九一年フィレンツェに歿す。

(註六) Domenico Induno 歴史畫、世態畫及び肖像畫家、一八一五年ミラノに生れ、一八七八年同地に歿す。

(註七) Giuseppe Isola デエノヴァの畫家。一八〇八年同地に生れ、一八九三年歿す。

エドアルド・キョソーネに就て

八

以上キョソーネの吾が國に於ける業績と遺作品とに就て、大略を述べたが、茲に特に附記したいのは、嚮にも一言したデエノヴァのキョソーネ博物館の成立由來と、彼が吾が公私の印刷界に與へたる甚大な影響との二事である。

明治十二年五月より九月に亙る印刷局長得能良介及びキョソーネ等の二府十二縣の古社寺等の古美術調査は、明治期の古美術調査の先驅をなすものである(註一)。加之、キョソーネ個人にとつて、彼をして日本美術の優秀性に驚倒し、其の蒐集を發願せしめた動機として注目せねばならぬ。彼は之と相前後するアーネスト・サトウ Sir Ernest Mason Satow やフランク・プリנקリ Frank Brinkley 或はウインチエンツォ・ラグーザ等との親交によつて、其の日本美術愛好心を愈々高めたものと推察される。而も杉孫七郎、得能良介の援助或は印刷局勤務の樋口光義、平林探溟、石井鼎湖の如き日本畫家の指導、助言或は龍池會以來日本美術協會に於ける名譽會員としての彼の地位は、其の蒐集を容易ならしめた。而して、彼の蒐集法は極めて系統的であり、史的であつて、著名なる作家、優秀なる作品と共に、或る流派に於ける衰頹期の作家の作品をも蒐集して其の流派の盛衰、流派間の比較研究に資することを意圖し、同作家の作品は其の最上のものを收めることを努め、第二流、第三流の作品は、漸次他の美術館、博物館等に譲

つた。殊に日本金工品中、今日獨逸、伊太利亞或は英吉利等の博物館等に收藏さるるものに、嘗てキヨソーネの蒐集に屬せるものを多く見

第七圖 キヨソーネ博物館の第一部

出すといふ(註二)。而して、彼は是等の蒐集品を以て麴町區平河町の邸に陳列戸棚を作り、門弟をして其の整理を助けしめ、彼の居宅は宛

然一美術博物館の觀があつたと傳ふ(註三)。

明治三十一年キヨソーネは其の逝去に際して、是等の蒐集品を彼が嘗て藝術的薰陶を受けた郷國ジェノヴァ市のアツカデミア・リグステイカに寄贈することを遺言した。これは、歿後彼の知友にして伊太利亞公使館員たりしルイヂ・カザチ Luigi Casati に依て實現された。茲に於て、アツカデミア・リグステイカに於ては、其の陳列と整理を終り、キヨソーネ博物館と命名して、明治三十八年に至つて、是等の展觀を開始した。

而して、今日キヨソーネ博物館は三室に分つて、彼の廣汎な蒐集品を陳列してゐる。繪畫に於ては、主として東山時代以後近世諸派を網羅してゐる。即ち、雪舟をはじめ秋月、啓書記、雪村、直庵、等益或は狩野派の元信、山樂、山雪、探幽、尙信、常信、周信、榮川、伊川、氏信、章信等があり、圓山、四條系の應舉、楠亭、景文、清暉、祖仙があり、又岸派の岸駒、岸岱文人畫派の文晁、華山、椿山がある。更に浮世繪肉筆及版畫は此の蒐集の主要なるものであり、優秀なものであるが、菱川師宣、同師重、西川祐信、鈴木春信、近藤清春、磯田湖龍齋、鳥居清倍、同清長、宮川長春、同春水、勝川春章、同春英、春湖、春亭、春扇、歌川豊春、同豊國、國芳、喜多川歌麿、同式麿、窪俊滿、葛飾北齋、細田榮之、岩窪(魚屋)北溪、菊川英山、池田英泉、安藤廣重等の名を見出す。此の外、近代の作家として、菊池容齋、河鍋曉齋、柴田是眞等がある。

彫刻、工藝品としては、金銅佛或は日本及び支那の青銅瓶、杯、盤

(一) キヨソーネ筆 三條實美像

東京公爵 三條公輝氏藏

(二) キヨソーネ筆 川上操六像

東京 西村新一郎氏藏

(一) キヨソーネ筆 大山巖像

東京公爵 大山柏氏藏

(二) キヨソーネ筆 大山巖夫人像

東京公爵 大山柏氏藏

鏡等があり、更に豊富なる日本及び支那の陶磁器、漆器、染織品がある。是等の外纏つた蒐集として日本及び支那の各種の武具、樂器、或は能面、根付、印籠等がある(註四)。

次に、キヨソーネは、明治八年來朝以來十七年間に互つて印刷局に在つて幾多の業績を擧ぐると共に、新しき技術の紹介、實施に盡力し、又後進の指導に努め、是等の門弟をして、夫々の部門に於ける技術の修得に成功せしめ、吾が國の印刷技術を世界的水準に到達せしめた。

既に夙く、局長得能良介は、吾が國技術家養成の大綱を立て、明治九年政府が工學寮に工部美術學校を創立するや、十年春より印刷局技生及び幼年技生數名を此處に通學せしめた。他方、明治九年紙幣局内に畫學、圖學等の教場設置の議起り、十年二月大藏卿の同意を得て幼年技生教場規則を制定し、教場を新設した。其の畫學、圖按、製版等の技術の指導者は即ち吾がキヨソーネであつた。

斯くて、キヨソーネ多年の苦心は漸く成果を收め、其の退職に際しては、改めて海外より技術家を招聘する要なく、爾後は専らキヨソーネ門下の邦人技術家に依て擔當された。其の主なる者を擧ぐれば、齋藤知三、細貝爲次郎、降矢銀次郎、勝山重巽、木村延吉、伊藤貴志、本多忠保、石井勝次郎、大山助一、鴨下友次郎等がある。

加之、キヨソーネの影響は、只に印刷局に留まらず、民間印刷界にも大であつたことも記録されねばならない。もとより、松田敦朝、梅村翠山の如き、民間に在つて盡力し、門弟を養成した人々の功没すべからざるものがあるが、キヨソーネの許に在つて親しく其の薰陶を受

けたる者の中、後民間に在つて印刷事業に従事し、斯界に貢獻せる者が甚だ多いのである。

(註一) 第四章參照。

(註二) 正木直彦氏「書畫骨董」(東美第四號)。

(註三) 鴨下友次郎氏談。

(註四) キヨソーネ博物館に就きしは Catalogo del Museo Chiassone; L. V. Bertarelli; Griebens Reiseleiter. Band 21, に據る。又桑原羊次郎氏の示教に負ふところ多し。

附記 此の稿作成に當り資料の蒐集調査に御厚情を辱ふせる高松宮家、北白川宮家をはじめ内閣印刷局、正木直彦氏、松岡壽氏、矢野道也氏、石井柏亭氏、桑原羊次郎氏其他作品所藏の諸家に對し深く謝意を表する。